

知恵の樹

No. 201 2016. 4. 26

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

写真家・星野道夫さん

アラスカに永遠の命を探して

国松俊英(児童文学者・会員)

自然写真家・星野道夫さんが亡くなって、今年で20年目になります。2月に小学生に向けて、星野さんの少年・青年時代を書いた本をPHP研究所から出しました。『星野道夫 アラスカのいのちを撮りつづけて』(PHP研究所・刊)です。

私は野鳥や野生動物の観察が好きなので、それらの写真や写真集をよく見ます。見てみると、星野さんの写真とはどこか違うという感じがしてなりません。星野さんの写真には、単なる野生動物や大自然の映像を超えた何かがあるのです。

星野さんの写真には、太古から自然と生き物が営んできたはるかな時間があるような気がします。また、人間も含めてこの地球に存在するたくさんの命の輝きがあります。静かで穏やかな写真だけれど、とても強い力を感じさせ、見る者に、安らぎと慰め、また生きる勇気も与えてくれるのです。繰り返し見ていると、最初のうちは見えなかったいろいろな言葉や思いが、写真から湧き上がって伝わってくるようになります。

星野さんのロングショットの写真が好きです。

星野さんの最初の写真集に、グρίζリー(ハイイログマ)の親子を撮った遠景の写真があります。早春の雪山の斜面を、冬眠から覚めて活動を始めた親子四頭が一行になって歩いています。見てみると、親グマが子グマたちを気遣っている気配や、懸命に親グマの後をついていく子グマの息づかいが伝わってきます。厳しい自然を生き抜いていこう

とする親子グマ、この後に起きるであろういろいろな出来事が写真から湧きあがってきます。

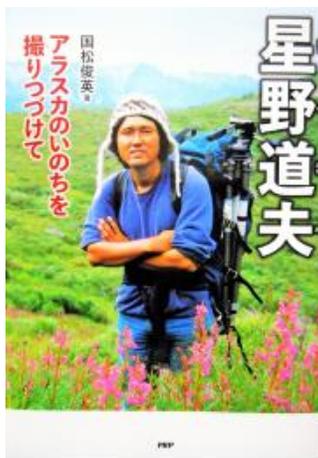
原野にころがったカリブーの白い頭骨の写真も、興味を引かれる一枚です。冬が近い寒々とした原野に、雲が低くたれこめています。色づいた草の上に、カリブーの頭骨がころがっています。敵に襲われて死んだのか、それとも病気で倒れたのか、カリブーはここで亡くなりました。時は過ぎて、雨や風で白くなった頭骨が、死んだカリブーの無念さと大自然の厳しさを伝えてくれます。

星野さんの写真を見ていると、自然の広大さと大きな時間の流れを強く感じさせられ、人間がいかにちっぽけなものかを知ります。

星野道夫さんのことを知ったのは、1979年ころです。大学時代の友人が、英詩創作を学ぶためアラスカ大学大学院に入学し、同じ年にアラスカ大学に入学した星野さんと学生寮でともに暮らすことになりました。

「日本から来た留学生で、星野というおもしろい男がいるよ。大学で野生動物の勉強をしながら、アラスカの山や原野を旅してまわっているんだ」友人から聞いて、うらやましい身分の青年だなと思いました。どんな人か興味を持ちました。

その後星野さんは、アラスカの自然や動物写真の発表をはじめました。雑誌「アニマ」にも、星野さんの写真は掲載されました。星野さんの活躍は広がっていき、木村伊兵衛賞を受賞したことも聞きま



した。日本だけでなく世界でも認められる自然写真家となっていったのです。

ところが1996年8月8日、日本のテレビ局の仕事でロシアのカムチャッカに行った星野さんは、早朝、テントで寝ているところをヒグマに襲われ亡くなってしまいました。

前から、子ども向けの星野道夫さんの本を出してほしいと言われていたのですが、そのままになっていました。それがようやくできました。

あきらめずに努力をつづけることの大切さ、夢を実現していくことのすばらしさ。写真家・星野道夫の人生を読んで頂ければうれしいです。

「市民活動と町田市立図書館との関わり」

市民活動で活躍されている増山正子さんのお話を聴く会を下記の要領で開催します。奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日時:2016年5月1日(日)18:00～(17:30 開場)

会場:町田市民フォーラム活動室(3階)

(原町田 4-9-8 サウスフロントタワー町田内)

お話:増山正子さん **直接会場へ!**

主催 三多摩図書館研究所
お問い合わせ(手嶋 042-676-4352)

図書館人事異動 (2016年4月1日付他)

◎図書館を退職された方、図書館から異動された方、お疲れ様でした。引き続き図書館の応援をお願いいたします。図書館に異動・配属された方は、図書館をぜひとも好きになってください。(敬称略)。

◇職員等

<減(退職、転出)>

氏名	新所属	旧所属	備考
張 研一郎	財務部市民税課特別徴収係担当係長	さるびあ図書館奉仕係長	
浅野 和歌子	市民部なるせ駅前市民センター	中央図書館奉仕係	
佐山 萌	子ども生活部子育て推進課事業係	鶴川地域図書館奉仕係(鶴川駅前)	
鈴木 美紀	子ども生活部児童青少年課学童保育係	忠生地域図書館奉仕係(木曾山崎)	
中山 憲一郎	—	さるびあ図書館奉仕係	再任用 退職
佐藤 路人	—	さるびあ図書館奉仕係	再任用 退職

<増(転入)>

氏名	新所属	旧所属	備考
大西 勝典	中央図書館奉仕係担当係長(サービス)	経済観光部農業振興課振興係長(併) 農業委員会事務局担当係長	
新井 直之	堺図書館奉仕係	財務部管財課車両管理係	
山崎 岩男	鶴川地域図書館奉仕係(鶴川駅前)	財務部資産税課管理係長	再任用
角田 俊彦	町田市民文学館担当係長	財務部管財課管財係担当係長	
佐久間 篤則	さるびあ図書館奉仕係	(新入職員)	4月13日

<昇格>

氏名	新所属	旧所属	備考
江波戸 恵子	図書館統括係長 兼) 中央図書館庶務係長	中央図書館奉仕係担当係長(サービス)	

<館内異動他>

氏名	新所属	旧所属	備考
新藤 直美	さるびあ図書館奉仕係長	忠生地域図書館奉仕係 担当係長（木曾山崎）	
小林 直貴	鶴川地域図書館奉仕係担当係長 （鶴川）	中央図書館庶務係長	
由良 哲次	忠生地域図書館奉仕係担当係長 （木曾山崎）	鶴川地域図書館奉仕係 担当係長（鶴川）	
渡部 敬介	忠生地域図書館奉仕係（木曾山崎）	堺図書館奉仕係	再任用
鈴木 巡	中央図書館奉仕係（リクエスト（借 用））	中央図書館奉仕係（整 理）	再任用
高松 昌司	中央図書館奉仕係担当係長（図書 館システム担当）	中央図書館奉仕係担当 係長（システム）	正式に（担当名） 追加
石阪 雅章	中央図書館奉仕係（リクエスト・ システム（MARC変更））	中央図書館奉仕係（リ クエスト・システム）	（担当名）追加
白井 真央	中央図書館奉仕係（AV・システム）	中央図書館奉仕係 （AV）	（担当） 追加
吉光 遼子	中央図書館奉仕係（H） 6月～	中央図書館奉仕係（リ クエスト）～5月	6月より 担当変更
高田 美保子	中央図書館奉仕係（リクエスト）6 月～	中央図書館奉仕係 （H・システム）～5月	6月より 担当変更※システ ムは3月で終了

◇嘱託員

<退職>

氏名	所属	退職日
藤崎 百合	中央図書館	3月31日
田嶋 さやか	中央図書館	3月31日
正木 敬子	金森図書館	2月29日
並木 千香	堺図書館	3月31日

<館内異動>

氏名	新所属	旧所属	備考
関口 奈伯	木曾山崎図書館	中央図書館（児童）	主任
田中 幸枝	中央図書館（児童）	木曾山崎図書館	主任
梶間 理恵	中央図書館	鶴川図書館	
海老根 紀久子	さるびあ図書館	金森図書館	
藤井 寛子	鶴川駅前図書館	中央図書館	
市川 博子	鶴川図書館	鶴川駅前図書館	
大井 久美子	金森図書館	さるびあ図書館	
市川 昌幸	金森図書館	さるびあ図書館	
中嶋 真樹	堺図書館	忠生図書館	

第5回「町田としょかん子どもまつり—本はともだち—」

報告

3月23日(水)～27日(日)／町田市立図書館全館・市民文学館／主催：子どもまつり実行委員会

行政と市民協働で開催されてきたこのまつりは、2011年度に中央図書館1館から始まり、第3回より全館で開催、2015年度の第5回目は、新館忠生図書館も加わり、市立図書館9館(含・文学館)で次頁のように開催することが出来ました。

すすめる会は、団体登録をして3回目よりこの実行委員会に加わり、それまで単独で行っていた広瀬恒子さんの講演会「どの本読もうかな?!」の開催でまつりに参加しています。

去る4月19日(火)には、今期最終実行委員会が開かれ、全館担当職員及び参加団体実行委員による、実施報告及び反省会等の話し合いが持たれました。それらを鑑み第5回図書館まつりを振り返ってみたいと思います。

実行委員会&図書館体制

2015年度の子どもまつり第1回の集まりは8月25日、図書館からの呼びかけに、うさぎの会(石原)、おはなしはすの実(新野)、おはなし如雨露(高島)、チョコの会(荻原・前田)、柿の木文庫(川又)、ピッピのくつした(津田)、桃の木工房(谷川/文学館)、町田ブックトークの会(佐藤)、地方史研究会(矢口)、まちだ史考会(大野・西山)、町田の学校図書館を考える会(伴・清水)、野津田・雑木林の会(久保)、かえで文庫(砂川)、町田の図書館活動をすすめる会(丸岡・増山)、NPOまちだ語り手の会(増山)の15団体が集まり賛同、実行委員会がスタートしました。

会期については、既に決定済みで、コアスタッフ(委員長:増山、副委員長:砂川・大野、イベント・企画とりまとめ:久保、会計:丸岡、チラシ作成協力:清水、図書館関係:関口・岡田・高橋)による会議(5回)と全体会議(4回)の日程が生まれ、各団体よりの企画と実行委員会企画、図書館側の企画を調整しながらまつりの全体像を作り上げていきました。その間、地域館との調整等を含め、事務

局を担って下さった中央の児童セクションの方たちには大変お世話になりました。

反省会では、各館とも全体の盛り上がりがあったという事、その中でも、金森図書館の頑張りが見られたことが話題になりました。館によっては、担当職員がやればよいという

風潮で他の職員の協力が得られないことや職員数が減らされていることから「まつり」にまで手が回らないため、ボランティアで出勤という人など、5回目を迎えても尚、一部職員のみには負担がかかっていることが分かりました。

「市民がしっかり図書館に関わり、図書館活動の推進力として機能するならば、委託や指定管理という、営利を目的とする企業が図書館運営を担うという事態に警鐘を鳴らすのではないか。「まつり」をきっかけに図書館を知り図書館に足を運んでもらい、図書館利用者の拡大を図りたい」、と事あるごとに「まつり」の意義を発信しているのですが、子どもに限定したまつり、とも考えられるタイトルであるがゆえに、全職員にはなかなか伝わらないようです。子ども相手ではない活動団体の史考会や地方史研究会は、「子ども」の冠があるがために、企画に苦勞されると仰います。図書館の予算や職員が減らされる中、「まつり」を実施することが余計なことであると認識される職員もおられることでしょう。でもこうした状況下だからこそ、市民と手をつなぎ、互いに援け合って図書館の活性化を図る「まつり」に挑んで欲しいのです。第6回は、「図書館まつり」として、子どもの周りにいる大人も巻き込んで盛大にと願っています。

(実行委員長 増山正子)



第5回 まちだとしょかん子どもまつり / 3/23(水)は、全館通常お話会

2016年3月		24日(木)		25日(金)		26日(土)		27日(日)	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
中央	6階ホール	オープニング お話会 NPO まちだ 語り手の会 (35. 11)	実行委員会 大学生による 落語 (104. 36)	野津田・雑 木林の会 草花あそび (32.17)	映画会 (E. T.) (69.20)	ビビの くつした 演劇ワーク ショップ (42. 24)	町田の学 校図書館を 考える会 ワークショップ (44.18)	実行委員会 絵本で 国際交流 (60.24)	実行委員会 ビブリオバトル おわりの会 (66. 2)
	お話のへや		お話会 (11. 6)	お話会 乳幼児 2回 (35.18)	中垣ゆた か氏ワー クショップ (62.35)	町田ブック トークの会 ブックトー ク 2回 (18.7/21.6)	おはなし はすの実 お話会 (14. 7)	おはなし 如雨露 お話会 (14.6)	実行委員会 MIX お話会 (11.5)
	中集会室				まちだ史考会 展示とおはなし「SLが 町田に」(138. 75)	ビビの くつした 読書会 (18. 6)			控え室
	小集会室		点字でお名 前うってみよう (31.13)		本にフィルムはっ てみよう (12. 5)				
町田市民文学 館 ことばらんど 2階大会議室			かえで文庫 わらべうた あそび (48. 13)			桃の木工房 お話会 (31.19)		町田の図書館 活動をすす める会 広瀬恒 子氏講演会 (38. 0)	
さるびあ	2・3歳児 お話会 (27.17)	ブックト ーク (13.6)	お話会 乳幼児 2回 (23.16/ 21.11)			お話会 (7. 5)	ブックト ーク (9.4)	町田ブック トークの会 ブック トーク (12.6)	お話会 (13.110)
鶴川			お話会 乳幼児 (23.13)	ブックト ーク 小学 生(7. 4)					お話会 (27.13)
鶴川駅前	2・3歳児 お話会 (13.7)	ブックト ーク (7.4)		お話会 (12. 7)			柿の木文庫 お話会 (25.17)		
金森		うさぎの会 おはなし会2回 (29.20/11.6)	実行委員 会 MIX お話し会 (43. 29)	ブックトー ク 2回. 小学 生(8.4 /13. 6)	お話会 乳幼児 (24. 14)	お話会 2回 (18.10 /24.15)		お話会 (24.12)	
木曾山崎	2・3歳児 おはなし 会(8. 3)	ブックト ーク(5. 5)			えいが会 (4. 2)				
忠生	3/8～ 蕨内正幸 原画展	実行委員 会 MIX お話し会 (16. 12)		ブックトー ク 小学 生(9. 5)			家族で楽 しむ絵本 の話 (16. 9)		
堺		お話会 (3. 2)	乳幼児向 けお話会 (5. 2)			映画会 (9. 5)		お話会 (10. 5)	

備考 網掛け: 図書館サイド実施
 カッコ内: 参加者数(総数・内子ども) 総数: 1,709人(内子ども 774人)
 おはなし会表記⇒ ・乳幼児向け ・2,3歳児向け ・おはなし会のみ(どなたでも)

展示 蕨内正幸原画展「どうぶつの世界」(3/8(火)～27(日)) 忠生図書館 多目的室にて開催(1198名入場)
 町田地方史研究会「町田の地名」(3/17～3/27) 中央図書館 こどものひろば他壁面

実行委員会企画 ・MIXお話会 (チョコの会・おはなしはすの実・まちだ語り手の会)
 ・落語を楽しもう(桜美林大学落語研究部・東海大学個人)
 ・絵本で国際交流(国際交流センター:アメリカ・中国、西東京朝鮮学校、スリランカ:ソーマシリさん)
 ・ビブリオバトル(都立町田総合高等学校文芸同好会が協力、前司会者 宮本臯さん招待)

本紙No.200 で多摩地域公立図書館大会第2分科会について、児童サービスの調査と事例発表(多摩市と福生市)を報告しましたが、ここでは内藤直子さんの講演を紹介します。

東京子ども図書館の児童奉仕の試み

1. 児童室の特徴

① 子どもと密に接する

② 児童室に置く本を、 ていねいに選ぶ

東京子ども図書館の選書
会議「本の会」

・「本の会」の進め方

*レビュースリップを使う

*率直に意見を出し合う

*比べ読みや、子どもに読んでみることも

*評価のランクを定める

A:蔵書の核となる基本蔵書

B:欠点が少しあるが長所が勝る

C:欠点もあるが、類書がない

読みなれない子どもも気軽に読めて、物語を味わえる。次に進んでいける足がかりになる本(読書室の蔵書8千冊を維持しながら、毎年2百冊新しい蔵書を加えていく時に減らす蔵書は子供と一緒に読んでいながら外す本がどれかわかってくる(Cランクの本から選ぶことが多い)。D:欠点が多い、子ども向けに出ているが内容は大人の本など…対象外となる

・本の会で選んだ本は、機関誌「私たちの選んだ児童室の本」・書評で紹介

・ブックリストの編纂

『絵本の庭へ』(児童図書館基本蔵書目録1。

現在、目録2『物語の森へ』を編集中、目録

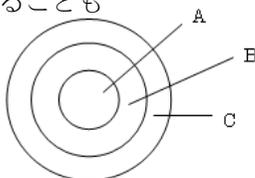
3『知識の海へ』は数年後出版予定)

『今、この本を子どもの手に』…購入可能な本の中から選んだ1,000冊(東日本大震災の折に、全国から送られてきた本をどう選別するかの際に基準となるものとして作った)

『子どもの本のリスト』…件名索引が充実、ブックトークや展示に活用

2. 児童室の1年

・お話会:3才~小1「小さい人むけ」、小2以上「大きい人むけ」毎週水曜と隔週土曜午前



あるかもしれないおはなし会:土曜午後に
普段のおはなし会を聞けない子供たちの為

*おはなし会には3才でも子どもだけで入る

わらべうたの会:3歳未満の子どもたちが来る
ので、月2回開催。本に出会う前に赤ちゃん
とママがわらべ歌を通して言葉と体で気持ちい
関わりができる良さをスタッフも実感。

・催し:おばあさんのいす:全国の方に出ている
だけ。必ずおばあさんが子どもだった時
の話もしてもらう。おじいさんのいすも。

夜のおはなし会(夏休み、ちょっと怖い話)

クリスマス会(何冊も読んだり何回も来た子な
どを表彰)

読書キャンペーン:毎年、秋からクリスマス会前
にかけての2~3ヵ月間。テーマやしかけに
そって、子どもたちをたのしく読書に誘う

3. 記録を残す(子どもがどんな言葉を発したか、
どんな表情をしたかなども)

今、できることは何か

・常に、「これは、子どもに読書のたのしみをもたらすかどうか」を第一に考えて、できないことを嘆かず、できることを工夫する

・サービスを支える蔵書に親しむ

・お話会:人数を気にしない。小さい子しかいなければ、やり方を考える。子どもの心をとらえ、永続的な楽しみと喜びをもたらす力を持っている作品を選ぶ。子どもが楽しめるように、年齢を分ける。

・子どもの周りにいる大人に働きかける。

・どうしたら図書館が子どもに良いサービスができるようになるか、考え続け、行動する。

*私的にしていることは何かのことで途絶えてしまうこともある。自治体の仕事としてしなくてはならないのではないのか。

*迷う時は、子どもが本を楽しんでいることにつながるかどうかを考える。

*よいからと進めても伝わらないことも。自身が面白いと本心から思ったものは相手に伝わる。

*子どもたちの状況：ゲームを1日5時間以上していると子どもは前頭葉が働かなくなって、認知症と同じ状態になると小児科の先生が言われている。とても深刻な状況。

マップのへや

子どもの周りにいるおとなへの働きかけのひとつとして、2年前から始めた。火・木曜の午後に関室。東京子ども図書館で予約。

場所：「かつら文庫」（杉並区荻窪）西棟2階（公益財団法人東京子ども図書館のもとになった四つの家庭文庫のひとつ。児童文学者、編集者の石井桃子さんが1958年に自宅で開いた。現在は東京子ども図書館の分室として、変わらず活動を続けている。そのほか、石井さんの書斎、資料室、展示室、渡邊重雄さんの作品・資料、『チムとゆうかん船長さん』のシリーズの原書などと共に公開。）

目的：全国各地で子どものための読書活動をしている方々から寄せられた活動記録などの資料や情報を整理して、公開すること。また、文庫に関する相談や問い合わせに答える等、資料を生かした活動を展開すること。

*これらは、戦後、草の根のように広がった子どものための読書活動を伝える貴重な資料。活動している方たちによる手作りのパンフレットが多く、散逸しやすい。それぞれの地域の公的機関で収集されるべきものであり、小さな私立図書館の手に余る仕事ではあるが、民間読書活動を推進してきた者の使命として収集発信。

資料の配架：

- ・都道府県別のファイルボックスに入れて、北海道から沖縄まで北から南へ配列。海外も数例あり。都道府県には、北海道1というように通し番号をつけ、都道府県の箱の中は、市区町村名の見出し（50音順）を入れ、グループ名を記したファイルに資料を入れて50音順に配列。
- ・冊子体になっている資料は展示架に別置。

データ整理：

- ・各グループの情報を、項目（省略）に別にカードを作成。そこに情報を入力。
- ・閲覧用に、グループ名リストと、市区町村名別のリストの2種類作成。

マップ展示：日本地図上に、各グループが活動し

ている場所を示した。（小さなピンの頭に、グループ名、文庫名を記入して地図上に留めた。）
反響 いろいろな立場の人から多くの反響あり。
課題・全国の状況を把握するには、まだまだ資料が不足している。充実のための方策と小さなスペースの中でどう配置していくかが課題。
・始めたばかりの試みなので利用の動向を見ながら運営方法を柔軟に見直していきたい。

結びに言われたこと

- ・一番は図書館が元気になること。図書館の職員がきちんと熟練していくこと。そのために図書館がどうなったらいいかを考える人が一人でも増えること。外にいる人たちが支えることが大事。利用者が図書館を育てる。同時に、図書館の職員がきちんと仕事をすれば、おはなしをするボランティア・本をすすめる人が増える。
- ・このままだとどんどん映像メディアにからめとられてしまう。子どもたちにワクワクする読書体験をさせることが大事。

参加しての感想

東京子ども図書館には、柿の木文庫が伊藤忠記念財団の文庫活動支援としての「子どもの本100冊贈呈」を受けた贈呈式の帰りに、松岡享子さんに引率していただいて訪問したことがあります。その時にも選書のことなどを伺いましたが、柿の木文庫に来る子どもたちがどの本を借りてもいいように、文庫の蔵書をもっと厳しく選定しなくてはいけないと改めて反省しました。

また、子どもたちの為に図書館と共に頑張っているという気持ちを強くしました。

かつら文庫はまだ石井桃子さんがお元気だったころにひなまつりの時期に伺いました。そこが本に関わる大人のための資料室となり、マップの部屋があることを今回知りました。2009年6月に出来上がった『柿の木文庫25周年のあゆみ』を東京子ども図書館にお送りした時に、松岡さんからの礼状に、全国の文庫活動を調査しているので、その資料にしますと書かれていました。それが今回の「マップの部屋」になり、石井さんと松岡さんの、子どもと本に対する愛情、文庫等子どもの読書に関わる団体への応援の気持ちも伝わってきて、感慨無量でした。ぜひ近いうちにかつら文庫を訪れたいと思います。（鈴木真佐世）



3月例会 3/22 (火) 報告

・16:30～№200 印刷他(伊・清・多・手・丸)
・18:00～20:30 中央図書館中集会室

出席：石井、神尾、久保、佐々木、清水、鈴木真、多田、手嶋、丸岡、守谷、山口、山下（囑託労菅原代理）

議題

1. 会報について

№201：巻頭言を国松さんに依頼。多摩地域公立図書館大会参加報告第2分科会後半の内藤さん講演（鈴木（真））。子どもまつりの反省（増山）。人事異動。広瀬さん講演会記録⇒次号（№202）

2. としょかん子どもまつりについて

広瀬恒子さんの講演会について（再確認）

3. すずめる会のリーフレットの改定について

古い情報のままになっているところを直す必要あり（代表・事務局など）。検討は次回以降。

4. すずめる会の運営について

①会報の事務局表示と代表名（発行責任者）：調整してみる。②会則改正：運営委員の設置は行わず、例会常連のメールアドレス共有で連絡を取り合い、課題検討も行える状態をつくる。③「知恵の樹」の編集責任者の交代について：№200の発行を機に、交代したいとの増山さんの意向を受け、手嶋が№201を担当。4月の役員決めの時に複数体制を作る方向で検討。

5. ホームページの開設について

MLに投げかけ、意見を受けて、お試し版を作ってみる。

報告

1. 図友連図書館全国大会関係情報について

10月16日（日）青山学院大学青山キャンパス

2. 図書館六分会協議会との話し合いについて

3月11日（金）午後6時30分～中央図書館、出席：山口、手嶋（以上、すずめる会）、黒田（図書館六分会協議会代表）、高松（事務局長）、海老澤（中央図書館分会長）、石井（さるびあ図書館分会長）

3. 団体及び個人からの報告

囑託労（佐々木）：野角さん、自治労本部へ出向の来年度分の決裁がおりた。

*図書館内勤務体制プロジェクトの話し合いに囑託も参加。*定期総会（6/9）の準備開始。

語り手の会（丸岡）：としょかん子どもまつりで、各館でお話をたくさんやる。実行委員会形式

柿の木文庫（鈴木）：としょかん子どもまつり、第62回柿の木文庫おはなし会

野津田・雑木林の会（久保）：駐車場閉鎖の件（「知恵の樹」№200、8頁）、3/2に市の担当者と会談。終了間際に、長年、市民協働で生物多様性に取り組んできた保全区域である上の原に、ナイター観戦客の安全のために投光器を設置する計画の話が。工事は1週間後位の予定とのこと。強く抗議。後日、駐車場閉鎖は大幅に短縮し、春休み前に開放する旨、投光器は草原の生きものに影響がある方向は照らさないよう設置の場所と投光器の数を見直す旨の回答が得られた。「公園は、だれのもの？」と問われる事態が次々出てくることに胸が痛む。

学校図書館を考える会（清水）：3/6、連続講座の会員他15名で20名参加のワークショップ⇒まつりで本番へ。

かえで文庫（丸岡）：3/14 金森図書館から山崎奉仕係長来る。4月コミュニティセンターオープン。内部を写真で見せてくれた。様子が想像と大分異なるようだ。土足で入る⇒雨の日はどうするのか、心配。かえでのメンバー11人位集まる。調度品など購入してもらうものを20万円の枠内で選ぶ。7月引越し予定。それまでは成瀬中央小で活動。金森図書館が全面協力。

図書購入予算の件（石井）：さるびあ図書館で270万円、選定では毎回5万円程度。学校支援や団体支援、児童の資料が買えないかもしれない⇒支援に影響がでる可能性あり。リクエストの見直しも＝所蔵のないものは、在勤・在学にはお断りする（4月から）

お詫びと訂正：前号3頁、多摩地域公立図書館大会参加報告第4分科会報告の記事中「現五日市市」を「現あきる野市」に訂正します。

あとがき「知恵の樹」の編集を№200まで中心になり担ってくださったM⁴こと増山さんが交代の意向を示された。取り敢えず、今号の編集を引き受けたが、思いもよらぬところで躓き、無為に時間を費やした。思うようにパソコンを操作できない己の無能さ加減に呆れてしまった。もちろん、パソコン操作だけではなく、編集能力不足も自覚している。増山さん、20年もの長きにわたり、お疲れ様でした。（T²）。